

いさご

第32号



2001年 8月

(財) 日本野鳥の会 三重県支部

● タカの魅力 ● 市川雄二 (副支部長)

大空をゆうゆうと飛翔するタカ。ある調査機関が実施したら、もう一度生まれ変わるとしたら何になりたいかというアンケートの問いに、第一番がタカになりたいということだったようです。大空を自由に羽ばたきたいという願いからでしょう。管理された社会構造の一面をのぞかせているような、窮屈な現代の世相を反映しているように思われます。しかし、タカにとっては、魚の目タカの目で、生きるために餌を探し、相手を見つけ、種を維持するために必死に生きているのです。食物連鎖の頂点に立つタカも、かつては豊かな自然のなかで、それこそ悠々とした生活をしていたでしょうが、今の自然破壊の進行する中での生活は、大変な苦勞にちがいありません。ほとんどのタカ類は減少しているどころか絶滅に追いやられています。

今年始め、「しろちどり」の表紙に、もしもこんな光景がみられたらという願いをこめて、ある池にオオタカが現れたことを想定して書いてみました。そうしたら、なんと今年の冬、石垣池の中の島にオオタカを見ることができたのです。願いがかなって夢が現実となりました。偶然とはいえ実に幸運でした。この石垣池は一昨年数千羽をこえるカモ類の越冬場所であったのが、今年は少ないなと思っていた矢先のこ

と。餌を求めてやってきた若い雄のようでした。

オオタカといえば10数年前、藤原町内の丘陵地を歩いていた時のこと、30メートル離れた赤アカマツ林の枝にとまった雄の成鳥を見ることができました。美しく、精悍な姿に驚き、しばし見とれ、400ミリのカメラを持ち合わせながら、シャッターを切るのを忘れてしまったことを覚えています。上空を飛翔しているのはたまに見ることはありますが、こんな身近で見られたのは初めてのことでした。

大抵は、写真やビデオで記録する趣味のある自分であるので、そのときのことが悔しくてならないのですが、逆にオオタカに会いたいという気持ちがいつそう強くなったようです。その後も暇を見つけてはオオタカを求めて野山を散策し、今までに常葉していた幾つかの場所を見てきましたが、いまは開発の影響でその姿を見ることができません。

見る機会が少ないからこそ、出会ったときの感動が魅力として感じられるのだと思います。

目次

- 巻頭エッセイ・今月の表紙・・・1
- 特集
各地域の夏鳥・・・・・・・・・・ 2
- 支部の活動理事会通信・・・ 6
- 会員のページ・・・・・・・・・・ 8
- 探鳥会報告・・・・・・・・・・ 12
- お知らせ・・・・・・・・・・ 13
- 編集後記・その他・・・・・・ 14

今月の表紙 絵：平井 正志

長野県御岳継子岳(1994年8月)
Nurecker
高山に棲む小型のカラス。黒い体に無数の白斑がある。腰と下腹部は白く、尾の先端も両側が白く、ハイマツの実を好んで食べる。山を歩いているとこの鳥が食べ散らかした跡をよく見かける。ヨーロッパから極東にかけて広く棲息し、渡りは知られていないが、冬には山すそに移動するという。御岳の北の外れ、継子岳周辺には広大なハイマツの海があり、登山者もまばらである。数羽のホシガラスが静かに採餌していた。ここにロシガラスを作り観光客を入れる計画があると聞いて唖然とした。

平井 正志(安濃町)

今月の表紙
ホシガラス (Acidipiza caryocatactes)

◆ 三重県各地の夏鳥とその環境 ◆

今回の特集は、夏にちなんで南北に長い三重県各地での夏鳥にターゲットをあてて、コメントをいただきました。各地区の特徴の理解を深めることができたらと思います。

[伊賀地区]

伊賀のサンコウチョウ

今年になって大阪市立自然史博物館のメール仲間の中で、サンコウチョウが増え始めているという話が流れ始めた。冬に渡る東南アジアの熱帯林が伐採されて、生息環境が潰され、少なくなってしまうと聞いて久しい。久々の朗報であったが、真偽の程がわからず、にわかには信じられなかった。

姿を始めてみたのは40年も昔の箕面の森である。青春時代の感傷にふけりながらひとけのない歩道を一人で登っていくと、私を誘惑するかのように目の前の枝に止まった。青いアイシャドーの横顔をしばらく見せてから、長い尾羽を翻して暗い林の中に幽玄と消えていった。その瞬間の印象は今も鮮やかに残っている。

この数年地元で自然観察活動が続いているお陰で、幸いサンコウチョウの声を聞く機会が多い。彼らの声は、わかりやすく覚えやすい。同好の田中さんの記録も含めるとこの数年間に、名張市青蓮寺、上三谷、鷺山、安部田、上野市摺見で声だけでなく姿も目撃している。

2001年7月1日、伊賀タカの会と伊賀自然の会の共催で上野市法花の観察会を行った。急な花垣断層崖の照葉樹林や北側の国有林の雑木林の野鳥観察が主目的であった。この山地では前年にクマタカ、アオバズク、アオゲラを確認していた。メインポイントである応感神社は、村の出会いで騒々しく、しかたなく裏山に登って下りてきたときであった。ポイポイポイと特徴あるフレーズが聞こえてきた。その上キビタキの鳴き声と姿も確認されて俄然色めき立った。神社は既に本来の森巖としたシイを主体にした大木が光を遮り、林の中は下生えが無く見通しがきく。静寂に戻っていた。ムササビのウンコが散らばっている社殿の前や石段にとどまって、彼らの姿を追った。

尾羽の短い♀チックな個体が囀っている。逆光のために影絵の様で、色が判らない。北際さんのデジカメには尾が短い2頭が写っていた。しかし、囀っているのは同一個体のように見えた。

あぶれ♀が2頭、しかも囀っている。この生物界の一般常識から外れた事実に頭が混乱し、しこりのような疑問が残った。

その日長い時間神社にとどまったが、アオバズクの声も、アオゲラの姿も確認できなかった。また去年クマタカを見た大きな池の堤でも成果はなかった。しかしサンコウチョウに堪能して満足な気分であった。

寝しなになって昼間の疑問が急に気になりだした。お陰で夜更けまで手元にある図鑑類を片っ端から調べる羽目になった。ほとんどの本は♂が囀る前提で書かれていたが、♀が警戒の目的で下手ではあるが♂のように鳴くと書かれたものがあつた。その上、若い♂では尾が短く、次第に長くなることや、渡去（渡りのことか）以前に中央2本の尾羽を落とすと書いているものもある。これは、渡り途中の南の島で尾が短い♂が多く観察される事が根拠になっているようだ。尾の短い若い♂でも繁殖するとも書かれている。以上のことから、応感神社の2頭は繁殖つがいと確信した。♀が囀ることについては、タマシギのように卵を生みっぱなしにするならともかく、♀の育雛負担が大きい野鳥では直ちに信じがたいが、警戒のためというなら少しは納得できる。また、尾羽の短い良く囀る個体は、♂だと確信した。応感神社の成果に味を占めて、7月8日には上野・名張・青山のサンコウチョウ調べを行った。以前に声や目で確認した場所を中心に、応感神社に似た環境がある林床の開けた鎮守の森も調べることにした。上野市摺見、青山町柏尾、比々岐神社、名張市鹿高神社、矢川春日神社では成果はなかった。

名張市南古山には昼前に着いた。6月頃からハチクマやサシバ、オオタカを観察した場所に近い。狭い廃田となった低い谷が南にのび、ハンノキのミドリシジミを探してかよったところでもある。その谷奥で6月中頃に声を聞き、同じ頃田中さんも聞いていた。谷を詰めると小さな池で終わる。池の手前で囀る声を聞いた。以前に二人が聞いた声は間違っていなかった。長く同じ所に止まっているということは繁殖していると考えて良い。側の農道は長く使われず、倒木のため通行不能になっている。コナラを中心とした木々は、濃く繁って深い日陰を作っている。池の堤の側にリョウブが枝を広げ、白い花が甘い日本調の香りを放っている。堤に上がると2-3頭のウシガエルがキューと声を上げて派手に水音をたてた。左岸からコナラが斜めに幹を伸ばし、右側はヒノキ等を混じえた暗い雑木林である。対岸はハンノキの低い林になっている。数10m先の左岸のコナラの幹近くで数頭の鳥影を見て、急いで双眼鏡を当てた。2頭のサンコウチョウだった。♀はこちらに背を向けて止まっている。動かない。目を凝らすと、その足元に動く物がある。巣の中の雛であった。偶然とはいえなんと素晴らしい遭遇であろう。巣の周りは池が開けているせいか明るく、巣は丸見えである。しかし遠目には枝に着いたゴミの塊か瘤のように見える。♂は良く囀る。サービスピ精神も満点だ。池に張り出した枝に何度も登場し、順光のもとに鮮やかな色彩を披露してくれる。これも尾羽の短い若い個体である。♀も負けてはいない。まだ羽をバタつかせている蛾をくわえて、雛に給餌する。雛は3頭、狭い巣からほとんど身を乗り出している。巣は枯れ落ちたコナラの2叉に懸けているが、枝はかるうじて藤蔓でぶら下がっている。岸から3mぐらい、水面から5mぐらいの位置である。

巣立ちは数日後だろうと予測して、昼食のため一旦その場を離れた。午後1時半頃に再訪してみると、既に巣立ちした後だった。空き巣には枯れ枝からアリが次々に乗り移っていた。アリに追われて巣立ちしたとは思えないが、かなりの数である。後で図鑑で見ると抱卵半月、巣立ちまで更に半月、産卵から1ヶ月ぐらいで巣立ちすると知って、意外に早熟だと驚いた。

はじめ探しあぐねた雛も、鳴き出してくれたり枝上で羽ばたいてくれたので、2頭だけ見つけた。1頭は池に張り出したコナラの葉の茂み、もう1頭は岸の低い枝に止まっていた。茶色の毛がまばらに生え、腹が白い弱々しい姿であり、巣立ちには未熟のように見えるのは思い入れのせいだろうか。親の声を聞くと、眠っている姿勢から急に頭をもたげ、しきりに鳴き始めた。今日は彼らにとって予期せぬ日になったに違いない。大勢のギャラリーには驚きを隠せないようだ。対岸や頭上を良く飛び、♀も鳴いているようだと言った。田中さんは言う。長居し過ぎたようだ。彼らの気配が少し途切れたところで、未練が残ったがその場を離れた。リョウブの花の香の中で、身近にサンコウチョウに会う至福の時間であった。

7月20日、巣を詳しく観察するため営巣地を訪れた。あれから、幾度か短い時間の観察を行ったが、雛達は左奥の山壁に移り、♂はその位置や対岸のハンノキで囀っていた。姿は見えなかった。この日も、右の林で♂の声を聞いたがすぐに移動して行ったようだ。巣は惚れ惚れする見事な作りだった。芸術品のようだ。お椀のようで、意外に小さく深い。枝の股に作るせいか、岩棚に作る皿状で浅いオオルリと較べるとその深さと形の精巧さが際だっている。縁の輪郭が鮮やかである。クモの糸でしっかりと張り付けた苔やウメノキゴケで綺麗にカムフラージュされている。その後すぐに池の東隣の谷を詰めて、その辺りで良く鳴いていたサシバの消息を調べてみた。その広い枝谷の奥はメダカ池になっているが、その側の成長したコナラ林でサンコウチョウの声を聞いた。位置から言って繁殖個体と同一個体であろう。親鳥は営巣地を離れて既に広く動き回っているようだ。移動の証拠はもう1つある。その日の夕方、田中さんが以前声を聞いた鷓山に立ち寄った。探し回ってやっと、その辺りでは最も暗い林がある田畑の側の山足で、執拗に囀っているのを聞いた。しかし、残念なことに翌朝にはすでに移動してしまっていた。サンコウチョウが増えている。そう実感出来るほどサンコウチョウに興奮した1カ月だった。

<加納康嗣>

[北勢地区]

<桑名市城南地区太平町におけるコアジサシの繁殖の失敗と営巣地の放棄について>

1. 場所

桑名市城南地区太平町に建設中の第2名神への接続道路として県道の工事が行なわれているが、その県道上の一部にコアジサシの営巣地があった。

2. 経過

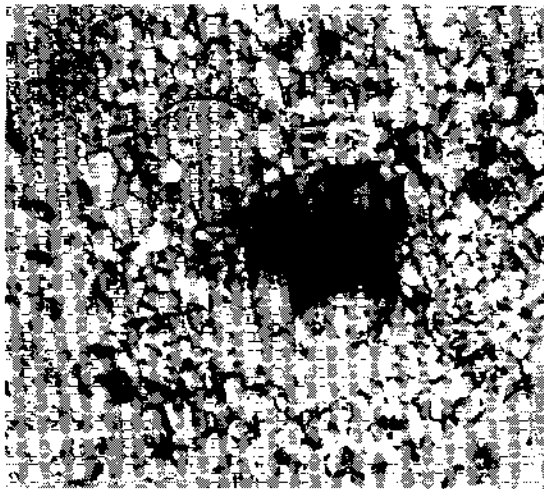
5月22日 城南へ見にいきコアジサシの場所を確認する。北勢県民局環境グループの江上さんに保護を要請する。

5月25日 支部長より県建設部へ申し入れたとの電話あり。7月中旬頃県環境部と繁殖の状況を見にくるとのこと。路上にいるコアジサシの数43羽。

5月30日 営巣地内に入って卵の数を数える。
3個…20箇所 2個…9箇所 1個…9箇所 計87個 38箇所
(桑名建設部 7月末日迄工事を延期することのこと。)

6月11日 営巣地に入り調査する。
卵1個…3箇所 2個…13箇所 3個…10箇所 計59個
雌…7羽 巣の跡…11箇所

営巣地一番奥橋の手前の巣にコアジサシの卵2個と長径約4.2センチやや青黒味を帯びた卵2個があった。ケリの卵であろうと思うが人為的に持ちこまれたものであろうか。



略

.....
.....

考察

○コアジサシが営巣地を放棄した原因は犬の侵乱によるものであると思われる。5月下旬現地を確認した時、工事中の橋の下に雨を避けて4・5匹の野犬が居るのを目撃したので、環境部の江上さんに捕獲するよう保険所に申し入れてほしいと依頼したが、コアジサシだけでは難しいとの事であった。以後野犬は目撃していない。又、付近には犬を連れて散歩している人が時々いた。24日以前も道路の帯の溝に沿って犬の足跡はあったが多くはなかった;元を正せば原因は人間にあるのではないか。海岸や河口部の砂地が埋め立てられた為、コアジサシは工事中の空き地に営巣しなければならなくなっている。海岸や河口部を出来得るかぎり元の姿に戻し、又は同様な場所を確保しコアジサシの繁殖地を取り戻してやらなければならないと思う。

○コアジサシの観察から気付いたこと

- ・コアジサシの抱卵時間(一部抱擁時間)は14分から26分迄が一番多く19例中17例で平均20.5分であった。最短が6分最長が37分であった。
- ・求愛給餌行動は観察した3個体の内1個体に見られ、しかも6月3日のみで7日には見られなかった。他の2個体A,Bについては6月11日Aに付いて1回のみ見られた。抱卵中じっとしている時、ごそごと腰を浮かし向きを変えたりする時、少し巣を離れて歩く時、飛んだりする時があった。
- ・親鳥は擁を護るため他のコアジサシが近付くと追い払う。他のコアジサシは擁をつつこうとする。
- ・抱卵していない一群のコアジサシが羽を休めている場所が営巣地の一角にあった。
- ・抱卵交替の時・始めの頃は1羽が巣の側に舞いおり交替していたが、日が進むにつれ1羽が巣の上に飛来すると抱卵を止め直ぐ飛び立っていくようになった。

桑名市城南地区大平町におけるコアジサシの卵と雛の数の推移

月日	卵数			計	雛数	備考
	3個	2個	1個			
5/30	20	9	9	87	0	
6/9	10	13	3	59	7	卵の消失した巣の数11
6/13	8	14	10	62	13	雛の死体2
6/18	10	18	6	72	4	9羽の擁不明
6/24	1	14	3	20	4	翼長25cm~15cmの擁の死体9。多数の犬の足印あり
6/26	0	0	0	0	0	成鳥16羽が営巣地の上空を外し、少し離れた工事の道路上を舞う。餌を齧っていた2羽が草地に降りたが、擁は確認出来なかった。翼長25cmの擁の死体1、かなり古い擁の死体2。コアジサシは1羽も地上に居なかった。
6/28	0	0	0	0	0	成鳥2羽上空を飛ぶ。翼長25cmの擁の死体みつからず。コアジサシはいない。
6/29 ~30	0	0	0	0	0	コアジサシはいない。営巣地は放棄されたようだ。

村田 芳雄

注：観察記録は相当あるのですが、編集の都合上、今回は省略させていただきました。

[松阪地区]

夏鳥目撃談その1

トラクターの動きに巻き込まれそうなくらい接近し、掘り起こされたばかり畑の土を先を争いながら啄む貧欲なアマサギの群、皆さんがお住まいの地域でもこの季節盛んに見られることと思います。トラクターを操作している方もあまりに大胆なその行動におっかなびっくりで、下を覗き込むようにしてサギたちを気遣いながら作業されている様子・・・なんとほのぼのとした光景です。

meg bird

[津地区]

—私の夏鳥—

コシアカツバメ

昨夏、鈴鹿川のほとりでコシアカツバメと初めて出会い感動しました。それ以来、どのツバメも気になって、つい腰の色や尾の長さを目で追う癖がつかしました。その甲斐あってか、美里村の里山でも発見！ 歓喜しました。上空高くゆったりと飛翔する様子は最高です。秋には、16羽ものコシアカツバメが自宅近くで旋回している姿を目の当りにしました。きつと旅立つ前だったのでしょう。

今年になって昨秋旋回していたあたりを観察してみると、どうも車の往来の激しい小さな橋の下に巣をつくっているようです。美里の方も同じような橋の下がお宿らしいのです。鈴鹿川近くの亀山では、建物の軒下に巣があったので面白い形が見られたのですが、橋の下では巣の様子がわかりません。縄張りを広げてみたものの巣を掛ける適所がないのでしょうか？ ほかのツバメに遠慮した結果が橋の下なのでしょうが・・・身体はひとり回り大きいのに、案外気は小さいのでしょうか。

「このツバメなら朝鮮ツバメと違って昔からよく知っていた」とは、志町の方の談です。

タマシギ

—昨年、夕刻コーコーとさびしげなタマシギの鳴き声を初めて聞きました。翌日、青田の列をゆっくり見て回っていたら、突然目の前に姿を現し、胸が高鳴ってカメラ

を持つ手が震えたことを覚えています。道行く小学生によると「ホタルの飛ぶころ、いつも鳴き声を聞いていたよ」と。でも、鳴き声の主の姿は知らなかったようです。又その秋には、そよぐ稲葉に抱かれるように、ひっそりと畔に佇んでいる6羽の幼鳥と親鳥に対面、またまた感動！！ しかし、去年はまったく駄目でした。姿は言うに及ばず鳴き声すら耳にしませんでした。今年も2晩鳴き声を聞いたのですが、広い水田の中にタマシギの姿を発見できません。春 麦、れんげ、菜の花などの裏作の済んだ田に、草が生えないよう水が張られると水鳥の子育てに適した条件が整います。振り返ってみると、去年はそれらの条件がぴったり一致していたように思えます。今年はどうなのでしょう。愛らしいタマシギに会いたい一心で、つい回り道をしているこの頃です。

岡 八智子

オオヨシゴイ

8月3日

伊吹山の帰り大安町池に立ち寄ったところ、池の水は少なく小さな干潟が現れ向こう岸には草が生え水鳥にとって最高の場所だ。そこで干潟にレンズを向けると小石の上にはイカルチドリが7～10羽いる、その横にはコアジサシの幼鳥が2羽親から餌をもらったり、時には水面を飛んでいる姿を観察できた。

しばらくしてレンズの方向を変えると、後ろ姿で首を伸ばした茶褐色の鳥がいる？

ゴイサギではない オオヨシゴイだ、と、かわるがわるレンズを覗き感動した。また、いる場所が、草の中でなく干潟で土はどぶ色だったので肉眼では見えにくかったが時間をかけ観察すれば何かが見える事を感じた。

水鳥たちは広い池が安全であることを知り集まってきたのだ。野鳥の住める環境は、人々にも安らぎを与えてくれる場所です。水辺をもっと保護することが大切だと感じました。

オオヨシゴイありがとう。

伊藤多紀子

2001年度第2回三重県支部理事会（2001.7.29 いせトピア 3階 研修室1）

●理事会の開催場所について

これまでの理事会の開催地はほとんど津であったが、今後は伊勢を年2回程度開催地とすることとした。

●調査委託<研究部・保護部>

(1)「平成13年度野生生物緊急保全事業」の調査受託

保護部・研究部で上記事業の地域で守りたい自然「五主海岸」の動植物（鳥や植物）の調査を実施する。

(2)平成13年度鳥獣保護区設定効果の調査業務受託

・調査場所 白山町二本木、尾鷲市左波留各鳥獣保護区

●中部ブロック会議について

(財)日本野鳥の会中部ブロック会議が長野県飯綱高原アゼリアで開催され、谷本理事が出席した。

報告要旨

研修会では長野支部の滝沢氏が「1998年の長野市におけるフクロウ類の分布」というテーマで発表され、長野市で28箇所程度の分布が見られたとのこと。

次期ブロック理事は甲信ブロックから選出することになり、長野支部細野支部長が選ばれた。

なお、2年後には三重県での開催が予定されており、来年度は多数の参加が必要である。

●保護部

(1)木曾岬干拓地について

6/22 県総合企画局に再度立ち入り調査を申し入れたが、安全管理等を主張して即答せず、ルールを作ってから立ち入りを認めることとなった。

(2)シンポジウム開催について

愛知県野鳥協議会と桑名での共催を検討している。会場講師未定。

(3)しろちどり調査について

調査結果が出揃い平井理事がまとめている。ヒナは高松海岸から、御座白浜まで19羽のみ。

豊津浦、町屋浦の継続調査地では2羽に激減している。（まとめた結果を記者発表する予定）

(4)小冊子の発行について

助成金を受けて「身近な自然を守るために」と題した三重県各地の自然環境を調査した40頁の小冊子を作成した。貴重な資料であり、効果的に広く配布することとした。1000部程印刷し、三重県自然環境課や関係自治体等の行政機関およびNPOに400部、会員に400部をそれぞれ配布することとした。

一般の希望者にも配布することとした（送料として1部切手300円）。

会員には「しろちどり」に同梱して配布する。

(5)コアジサシ繁殖地保護について

桑名市城南地区でコロニーを確認し、北勢県民局に工事延期を申し入れた。

詳細は今月の「しろちどり」特集<各地の夏鳥>参照

支部の活動：各部より

(6)名張のオオタカ問題について

この問題に対して6月28日に「タカの会」と共に県に申し入れを行ったが、7月4日の県森林審議会森林保全部会では保安林解除が答申された。

●企画部

(1)報告(4月～7月)

- ・バードウォークでは特に企画はしなかったが、北勢・南勢でテグス広いを行った。
- ・津市公民館でバードウォッチ入門を3回実施した。好評であり秋にも予定する。

(2)研修会について

「企画の立て方」の研修会を行いたい。また、自然保護の考え方を学ぶため10月に自然観察指導員講習会を紹介したい。

詳細は「しろちどり」のお知らせ参照

●編集部

(1)平成13年度の編集企画について

平成13年度は次の企画で編集する。

- ・31号 総会特集(既刊)
- ・32号 各地域の夏鳥<三重県各地の夏鳥とその環境を見る>
- ・33号 三重県の鳥は？<三重県各地で見られる鳥と豊かな環境を考える>
- ・34号 我が家に来る鳥<身近なバードウォッチングの楽しみ>

●密猟パトロール

- ・平成13年6月3日(日)鍛冶屋探鳥会の折、峠付近で、密猟者の痕跡を見聞きし、オトリのメジロ1羽とメジロ籠等を拾い、伊勢警察署に届け、南勢志摩県民局生活環境部にも報告と対策のため出向く。その後、支部より南勢志摩県民局へ「野鳥密猟を取り締まるための南勢地区におけるパトロールの要請」を提出し、密猟パトロールの実施となった。
- ・平成13年6月18日(月)、早朝6時に南勢志摩県民局を出発する。
(同行者伊勢警察署生活安全課2名、南勢志摩県民局生活環境部1名、鳥獣保護員2名、野鳥の会3名)
- ・実施場所は鍛冶屋峠、切原峠、剣峠の三ヶ所。
- ・不審車両発見。車にオトリのメジロ、密猟したメジロ1羽、トリモチ棒などがあり、警察署員が事情聴取を行う。愛知県の人でそのまま伊勢署へ。警察署員抜きの6名でパトロールを続行桑名の人で、夫婦連れ。警察が来るまで時間がかかったのが、最初は平謝りだったが、こちらの車のナンバーを覚えられたり、住所を聞いてきたりした。

注意：密猟者に対しては、原則として110番通報が一番効果的です。110番通報は記録に残り、必ず対処するようになっています。密猟者にはくれぐれも、気をつけて、対処してください



探鳥会に参加して くさえずりから想像の世界へ

秋田 山美子

探鳥会といえば、鳥を観察し、鳥の姿を見て何であるかあるいはその鳥の習性やポイントを教えていただくことが多いのですが、今回(6月10日)の探鳥会は、自然を心から楽しむ大変情緒のある会にさせていただきました。

梅雨の晴れ間?の日曜日、(暑くもなく寒くもなく、照るでもなく降るでもない微妙な天候の日でした。)青山高原での探鳥会は、車で目的地に向かう途中の林道がまず自然観察の場となりました。車の窓を全開にして、景色や鳥の声に目、耳を傾けました。「ちょっとこいちょっとこい」とは違うコジュケイの声やオオルリの声に耳を澄まします。ミソサザイの澄んだ声に、車を降りて林の中の溪流にその姿を探しましたが、見つけることはできませんでした。小さな体なのに張りのある良い声をしているのですね。驚きました。

林縁では、初夏の白い花が満開を迎えていました。卯の花やエゴの花が匂うが如く咲き誇っていました。この花々を求めて、幾種類かの蝶が舞っています。緑一面の山に目を移すと、まばらに、白い葉裏を見せたようなマタタビがあちこちにあります。もうすぐ開花です。そんな木々の中に可愛い房咲きの白い花が、皆の関心を集めました。「何という木かしら?」探究心旺盛な私たちの疑問に、「白雲木」だよ」とリーダーに教えていただき、林道の花の季節を大いに楽しむことができました。

しばらく道を進むと、3羽のキセキレイが、まだ幼鳥だそうです。車中から観察でき、先頭車で「得した」と喜ぶのもまだ早かった。後続車も止まり、車から降りて道沿いの藪に手を伸ばしては何やら口に運んでいらっしやる様子。早速降りてみると董色と赤いキイチゴが、実をた〜んとつけて、道行く私たちを誘っているではありませんか!口にほおぼると、自然の甘酸っぱい味がフルーツと口いっぱいに広がりました。赤い方のお味は?黄色い方のお味は?黄色いキイチゴが、程よい甘さでおいしい!

次なるこの辺りでは、オオルリの声すれど見つからず。でも別のすごいものを発見しました。山の中腹の林の中を、2頭のシカが歩いて行きました。「鹿!」興奮しました。ご覧になった方は少なかったようですが、私はシカをしかと見ましたよ。

わずかの時間に私たちの持つ五つの感覚器官(目、耳、鼻、舌、皮膚)を使って、自然をキャッチすることができました。

さあ、次は徒歩での散策です。“卯の花の匂う垣根にほととぎす早も来鳴きて”まさにこの歌どおりでホトトギスの声が、山のかなたから聞こえてきます。さらに遠くから空の筒を打つようなツツドリの声、初めて聞きました。ウグイスの鳴き声はどこからでも聞かれ、たまにギャーと鳴くカケス、ピーピローと鳴くイカル。ソウシチョウという帰化鳥の声も聞こえるらしく、図鑑でその姿を示していただきました。下りの道では、こあじさいのうす紫が風に揺れ、カッコウの鳴き声が私達を送ってくれました。左の山からカッコウ、右の山からホトトギスとツツドリ、いたるところからウグイスの声、まさに山の鳥の競演でした。

コツコツと小刻みに打つドラミング、ややゆっくりめのドラミングにコゲラかしら?やや大きめのキツツキ類かな??と想像を巡らします。じっと耳を澄ませば、様々な音や声が聞こえてきます。音や声を聞きながら目を閉じると、私たちの頭の中に鳥たちがくさえずったり、木を打つ姿がイメージとして広がります。映像や実像でない世界を授けてくれます。

多くの鳥の姿は見えなかったけれども、声を聞くことができ満足して集合場所まで行く道すがら、再びオオルリの声!大きな枯れ木の頂上でくさえずっているオオルリをついに発見しました!。最後に大物をゲット!。ゆっくりとその姿を見せてもらいました。なんだか、皆、とってもトクした気分になって、山をあとにしました。姿は見えないけれども、確かに山の中で、野生の生き物が生活を営んでいることを実感した次第です。

自然にどっぷりつかり、心豊かな気持ちで帰路につきました。指導していただいたリーダーの皆さん本当にありがとう。

みむーの中国通信(2)

三村 祥子

さて、夏も真っ盛りの杭州から今回も生きた中国をみむーが紹介します。
西湖は6月から7月にかけて蓮の花が満開を迎えます。
西湖の定番お土産の一つに『蓮茶』というものがあり、日本の葛湯のような少しとろみのある飲み物です。

昔から西湖は中国人にとって大変有名な場所でした。今でも多くの観光客がやってきます。しかしこの人と3ヶ月間生活してそれ以上に杭州の人にとって西湖は誇るべきところなのだ実感しました。

7月13日、IOC委員会によって2008年のオリンピック開催地が古都北京に決まったというニュースは皆さん記憶に新しいと思います。今回はこれに関係したお話を…。

13日の夜、いきなり杭州市内で花火が上がりました。時間としては10時過ぎだったんじゃないでしょうか？今思えばあの花火はオリンピック開催地決定を記念したイベントだったんですね。次の日のTVはほとんどオリンピックに関して！開催地が決定してからの中国各地の喜びを延々と流しているのです。その中に私が留学している浙江大学の映像も!!「えっ！ここっていつも勉強してる教室…」なんて見慣れた映像もちらほら。とにかく物凄い喜び様で「ここまで喜んでくれたら毎回中国でやってもいいよね。」とは友人の弁。

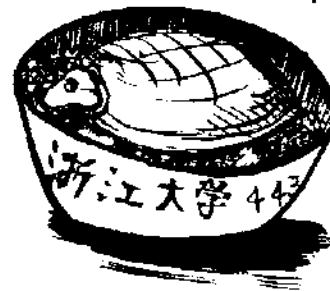
さて、そんなこんなで中国は今オリンピックに夢中になっているわけですが、その日の夜とあるところで中国人と話をしていました。すると何人かの中国人が私たち日本人の周りに集まってきて「オオサカ、グシャ」と手で潰すディスチャーをしながらオリンピックについて語ってくるのです。中国語はまだニュアンスしか掴めませんが明らかに日本を下げるんだ雰囲気でした。なにも私たちに不快な思いをさせるような喜びをしなくてもいいのに。と思ってしまうました。でもこれは中国が日本にまだ敵対意識を持っている証拠でもあります。北京オリンピックは、はたして日本と中国の距離を縮めることが出来るのでしょうか。スポーツを通じて平和な世の中を願う祭典、『オリンピック』日本と中国が友好に関係しあうことを願うばかりです。(みむーたち留学生が安全に暮らすためにも…ね)

とうとう食べたぞ！すっぽん料理!!

大学の中国人食堂ですっぽんを食べました。しかも丸ごと！かなり濃い味付け（魚醤だと思う）をしていたのでそれ本来の味はわからなかったのですが微かにする味は「川魚の肝」。さて、HOW MUCH?

四元なり。(日本円で60円!)日本でも高級食材な彼も、ここではリーズナブルで頂けちゃうんですね。参った!!

いざ!!すっぽん丼



大学では独自の器が売っている

探鳥会報告 (5~8月分)

● 愛宕・櫛田川探鳥会 (松阪市)

● テグス回収活動

日時: 5月13日(日) 10:00~12:00

担当: 中村 洋子

参加者: 9名(会員7名、非会員2名)

観察種: トビ、カブシキ、イソシキ、キアシキ、ヒバリ、カイツブリ、オオヨシキリ、ムクドリ、チュウシャクシキ、カルカモ、キシジバト、ハクセキレイ、セッカ、コサキ、バン、セグロセキレイ、イカルチドリ、コアシサシ、アオアシキ、ダイイキ、ツハメ、ケリ、ハシホソガラ、ソリハシキ、アオサキ、カワウ、スズメ、オソリハシキ

28種

コメント

今年も参加者が少なかったが久居市から中学生(会員)の参加があり、嬉しかった。

回収テグス 60g×13=780m

釣り針および鉛 80g

● 鈴鹿川河口探鳥会 (四日市市)

日時: 5月13日(日) 9:40~12:30

担当: 高 和義

参加者: 11名

観察種: カワウ、ダイイキ、コサキ、アオサキ、シロチドリ、キョウジョシキ、キアシキ、チュウシャクシキ、コリカモメ、コアシサシ、ヒバリ、ツハメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、セッカ、ホシホソ、スズメ、ムクドリ、ハシホソガラ

計19種

コメント

本日は快晴で比較的近くで見られたキツシギやキョウジョシキの羽根の模様がよく観察できた。テグス回収の参加者は11人で殆どが例年来る人。もっと一般の人が集まるような対策を考える必要がある。

回収テグス 1198g×13=1534m

釣り針132本

鉛玉 36ヶ



● 御池岳探鳥会 (永源寺町)

日時: 5月20日(土) 8:45~3:30

担当: 村田 芳雄

参加者: 7名(会員)

観察種: ヒガラ、シジュウカラ、クワヅミ、イカル、センダングラ、ミソサザイ、オオリ、アケラ、アケラ、ツツドリ、シジュウチ、ヤマカ、コリ、ホトキス、コマドリ、ウグイス、アオシ、コサキ、ヒタキ、コガラ、カス、コガラ、ハシホソガラ、ハシホソガラ、ヒヨドリ、ツハメ

25種

コメント

あかるい緑の森の中にコリやオオリの姿を見つづけることができ、素晴らしい日だった。

環境変化や問題

今のところ、開発の手は延びていない。

● 木曾岬干拓地探鳥会 (木曾岬町)

日時: 5月27日(日) 9:00~12:00

担当: 村田 芳雄

参加者: 11名

観察種: ホシホソ、ハクセキレイ、カルカモ、キシ、カワウ、コアシサシ、アオサキ、スズ、セッカ、ヒバリ、ゴイイキ、チュウサキ、アマサキ、チュウビ、ツハメ、カイツブリ、カラヒリ、ケリ、コチドリ、ダイイキ、コサキ、スズメ、キシバト、オオヨシキリ、ヒヨドリ、ハシホソガラ、ムクドリ、ハシホソガラ、トバト、カワセミ、トビ

31種

環境変化や問題

第二名神や焼却場の工事が進み、環境は悪化している。木曾岬干拓地の自然環境の復元、第二名神の遮光板の設置についてはすでに申し入れを行い、運動は続行中である。

● 美杉探鳥会 (美杉村)

日時: 6月2日(土) 4:30~8:30

担当: 中村 洋子

参加者: 39名(会員26人 非会員13人)

観察種: トビ、ツハメ、セグロセキレイ、カス、ヒガラ、ヒヨドリ、イカル、ヤブサメ、オオリ、セキレイ、アケラ、コノハズク、カガラス、ウグイス、ヤマカ、ハシホソガラ、カラヒリ、キシバト、ホトキス

18種

番外

ヤマ、ムサビ、シカ

コメント

好天気にも恵まれ、コハズクの声が四方から聞こえ、個体数は多いように思いました。ここは森林が豊かで手入れが行き届き、いろいろな動物が住んでいるのがわかりました。

● 鍛冶屋峠道探鳥会（伊勢市横輪町）

日時：6月3日（日）8：30～12：00

担当：吉居 瑞穂

参加者：20名（会員16名 非会員4名）

観察種：ホシヅメ、ウグイス、ホトキス、ヤマカエラ、シジュウカラ、コガラ、コゲラ、アカガラ、ヒトリ、メジロ、オオムシ、ヤブサメ、カワヒバリ、アサギ、トビ、ハシロカラス、

16種

コメント

手入れのされない植林地の問題点を感じて貰えたと思う。鳥以外の生き物にも色々出会え、また、予定外の峠の見晴台にも行くことができ参加者には愉しんで貰えたのではないかと。（参加者の方が自主的にごみ拾いをされて持ち帰りました。ご苦労様でした）

環境変化や問題

私達が着く前にカスミ網を使って密漁していた人がいたとのこと。密猟者が残したおとりのメジロ（死んでいた）やとりもちをつけた棒2本を回収し、県民局に報告（西村泉さん）した。あまりいかない所なので今後密漁対策をどうすればいいのか？

● 青山愛宕神社探鳥会（青山町）

日時：6月10日（日）9：45～12：00

担当：塗矢 博一

参加者：10名（会員8名 非会員2名）

観察種：オオムシ、ミサギ、ヒトリ、イカル、アカガラ、シジュウカラ、ヒガラ、ヤブサメ、ウグイス、カス、メジロ、コシユケイ、ホトキス

13種

コメント

少人数で静かに鳥の声を聞くことができた。

環境変化や問題

ブナ林、雑木林がまだ残っている所と水がきれいで町とはかけ離れた所です。

● 海蔵川探鳥会（四日市市）

日時：6月13日（水）10：00～11：30

担当：尾畑 玲子

参加者：4名（会員3名 非会員1名）

観察種：カワ、カイツブリ、カワヒバリ、チュウサギ、コサギ、アマサギ、コイサギ、ケリ、スズメ、キジバト、ツバメ、ヒバリ、セッカ、ヒトリ、カササギ、ムクドリ、セグロセキレイ、コゲラ、ハシロカラス、ハシブトカラス

20種

コメント

海蔵川探鳥会は1998年10月を第一回とし、翌1999年に年4回、2000年にも年4回行ってきた。今回は3年目の第一回と云っていいものだったが、参加者が少なく驚いている。次回は10月3日の予定だが、工事が再開するので、駐車場は農道になりそう。コースも少し変えるようにしたい。

● 木曾岬干拓地探鳥会（木曾岬町）

日時：6月24日（日）09：00～12：00

担当：村田 芳雄

参加者：18名

観察種：カワ、ホシヅメ、セッカ、ハシロセキレイ、コイサギ、アサギ、カカモ、ヒバリ、ツバメ、ヒトリ、ケリ、キジ、コトドリ、コサギ、ムクドリ、カワヒバリ、シヨ、チュウサギ、ダサギ、チュウサギ、カイツブリ、スズメ、アマサギ、ハシ、キジバト、ムクドリ、ハシロカラス、ハシブトカラス、オオムシ、イソギ

30種

コメント

雨にもかかわらず18人もの方が参加し、探鳥への意欲を感じた。

環境変化や問題

木曾岬干拓地内への立ち入り観察調査が先送りになっている。

● 下比奈知探鳥会（伊賀上野）

日時：7月15日（日）9：30～12：00

担当：田中 豊成

共催：タカの会

参加者：22名（会員18人 非会員4人）

観察種：ホシヅメ、ウグイス、コシアカツバメ、ヤマカエラ、スズメ、ハシブトカラス、ヒトリ、ツバメ、セグロセキレイ、ホトキス、メジロ、ハシロカラス、キジバト、シジュウカラ、コゲラ

15種

コメント

猛暑にもかかわらず多くの方の参加がありました。ツバメの尾羽を拾いました。生息している様子です。

NACS-J 自然観察指導員講習会の開催

主催 (財) 日本自然保護協会
三重県

1. 目的
自然に親しむ催しや野生動物の正しい観察活動を支援するため、自然保護の基本絵的な考え方や自然観察の方法を研修する。
2. 期間および会場
平成 13 年 10 月 19 日 (金) ~ 21 日 (日) 2泊3日・雨天決行
「鈴鹿青少年センター」
〒513-0825 三重県鈴鹿市住吉南谷口 ☎0593 78-9811
3. 受講対象者
(1) 満 18 歳以上で期間中の全ての講習および野外実技を受講できる方
(2) 自然保護教育の必要性を認識し、自然観察活動の推進に意欲のある方等
4. 定員
60名 (県内50名・県外10名)
申し込み多数の場合は抽選
5. 申し込み方法および問い合わせ先
・〒514-8570 三重県津市広明町13 三重県 自然環境課
自然・野生生物グループ
☎ 059-224-2627 E mail: shizenk@pref.mie.jp
・申し込み期間 平成 13 年 7 月 23 日 (月) ~ 9 月 14 日 (金)
5. 費用 (当日会場にて)
(1) 宿泊料 6300円 (県内在住者)
(2) NACS-J 自然観察指導員初年度登録料など
 - ・自然観察指導員初年度登録料 5000円
 - ・NACS-J 年会費 (個人会費) 5000円
 - ・テキスト代 2冊 3400円

なお、申込書や詳細は上記問い合わせ先にて確認願います。

三重出前トーク開催

「テーマ」 博物館ってどんなところ? 何をしているの
<博物館の「イロハ」から、裏側や専門的なことまでの紹介>

担当 三重県教育委員会
日時 2001年9月22日
場所 津市駅前アスト津3階 みえ県交流センター 第三ミーティングルーム
趣旨 県立博物館を魅力あふれる自然史博物館、県民に開かれた生涯学習の場としての自然史博物館、県民と共に築き育てる自然史博物館ができないものか考えて見たいと思います。また、今までの調査研究資料の蓄積や標本類の保存管理とこれからの自然史を考える上で自然史博物館が三重県に必要ではないでしょうか。!
藤田 克三

企画部よりお願い

県内各地の里山の風景写真、里山の生物の写真を持っている方はご協力ください

「しろちどり」の原稿の宛先は・・・・

(イラスト・表紙絵も大募集)

〒:

三村 通雄 宛でお願いし

ます。

TEL (FAX)

e-mail

取り上げて欲しいテーマ。またはこんなテーマはいかがですが？などのアドバイス。

川柳・短歌も大歓迎。



記事訂正

31号の内容訂正

8ページ「会員のページ」でのお名前が間違っておりました。「久住勝治」となっておりましたが正しくは「久住勝司」さんでした。お詫びして訂正させていただきます。

編集後記

今回は初めて特集らしきものを組んで見ました。

各地区の皆さんからのコメントが寄せられ、南北に長い三重県の各地の特徴と豊かな環境が少しでも伝わればと思います。

暑い盛りの8月ではあるが、7月よりは若干気温が和らぎ、少しはしのぎやすい今日この頃です。このように早くから暑い気候の年は、逆に秋が早くくるのかも知れません。

「おわら風の盆」前夜祭の帰路、白川郷は既にコスモス真っ盛りで、早くも秋の気配が感じられました。

M・M

しろちどり 第32号 2001年8月発行

題字 濱田 稔
表紙絵 平井 正志
挿絵 藤原 京子
編集 三村 通雄

〒
発行者 (財)日本野鳥の会 三重県支部
〒516-0026 伊勢市宇治山田浦田2丁目9-4
杉浦 邦彦方

印刷 館印刷
〒510-1321 三重郡菰野町田口1903-3

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。●